



寺尾前理事長
追悼号

ABBF ニュース

全国実業団ボウリング連盟

発行
全国実業団ボウリング連盟

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-33-4
川名ビル2F
TEL 03-3733-5888 番
FAX 03-3733-5893 番



弔辞

全国実業団ボウリング連盟

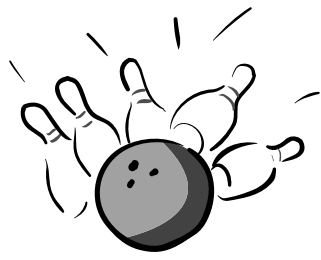
理事長 森島 弘仁

本日ここに全国実業団ボウリング連盟故寺尾重藏様のご霊前に謹んでお別れの言葉を述べさせていただきます。

昭和四十九年(一九七四年)寺尾会長は自費を投じ全国実業団ボウリング連盟(ABBF)を創設以来、他の競技団体との涉外や景気の低迷など幾多の浮き沈みをのり越えてABBFの一時を創られ今日の基礎を築かれました。これもひとえにボウリングを愛する信念とABBFに対する事業感覚で人を引きつけずにはおかれない魅力的なお人柄による

ものでした。

貴方がボウリングを愛したように貴方の人柄に惚れた多くの人達がお別れにと池田朝彦日本ボウリング協会会長を初め、会長の大好きな友好団体のNBFB白石雅俊理事長も最後のお別れと東京よりお越しくございました。



連盟もまもなく四十周年を迎えますが、その功績は連盟誌に長く銘記される事と信じますし、今後もまだまだお導きいただきたかったです。

この度突然のご逝去、大きな目標を失い痛恨のきわみでございます。この上はご遺徳と温容をしのび、ご冥福をお祈りし弔辞とさせていただきます。



寺尾重藏さんを偲んで……

社団法人日本ボウリング場協会

会長 池田 朝彦

寺尾重藏さんのご逝去を偲び、謹んで心からお悔やみを申しあげます。

ABBF設立の昭和四十九年から平成十七年迄の三十一年間の永きに亘り、組織の代表者である理事長をお務めになられた心身両面のご苦労に対し、深甚なる敬意を表するものであります。

設立直後の期間は、ボウリングの大ブームが過ぎた苦境の時期でしたが、大変強い意志で組織の拡充に尽力され、最盛期の平成十九年には、全国に一三四支部、会員数四、二九二名を擁するまでになりました。このことは、ひとえに寺尾前理事長のご努



寺尾さん ありがとうございました

日本ボウラーズ連盟 理事長 白石 雅俊

新潟市の斎場で行われた通夜、告別式に参列し、ご霊前に長きにわたり、あなたから戴いたご厚情に対し心より御礼を申し上げ、焼香させていただきます。

実業団事務局からの寺尾重藏氏を偲ぶご依頼に対し、早速筆をとりはじめたところ、あまりにも多くの事柄が思い巡り、まとまりがつかず思案にくれ、われながら驚く始末でした。

来年平成二十四年には結成四十周年を迎えるNBFBと相前後して全国実業団も立ち上がり発足いたしました。当時のボウリング業界は大きく揺れ動いていた時代でもありました。そして間もなく経済不況をまねく石油ショックの影響をうけ、毎日のように仲間のいるボウリングセンターが相次いで閉鎖、目の前が真暗やみの思いで過ごしておりました。そのような時代に私にとって大きな存在が寺尾さんあなたでした。

新潟から寺尾さんが上京する度に、お酒を飲まないあなたを相手に現在を語り、そして将来を考え相談することが多く夢を語りあったことが昨日のように思い出されました。

楽しい思い出も数多くありました。特に平成二年長崎で開催された日場協総会とボウリング発祥の地記念碑除幕式の夜に街中であることができ、そのことについて二人だけで熱く語り合ったことが、一層お互いの信頼を深めた記念すべきことと記憶しております。

お会いする度に勇気と元気をいただきました。そして『信頼』という二文字を大切にABBFと共に大好きなボウリングの仲間作りに協力し、発展させていくことを約束いたします。

本当に感謝いたしております。寺尾さんありがとうございました。

合掌

BBFとNBFB・日場協でボウリング友好会(BFC)を組織し、定例的に話し合いの場をもっております。

このように、日場協とABBFはその設立の経緯から、切っても切れぬ兄弟のような縁で結ばれており、これからもBFCで活動して参る所存であります。

ここで残された役員・会員の皆様へのお願いは、平成十八年十月に発足した日本ボウリング評議会(BCJ)への加盟の問題です。どうぞ一日も早くBCJへ加盟してください。この業界の厳しい時機を互いに手を携えて乗り越えていこうではありませんか……。役員皆様のご決断を、改めまして強く強くお願いを申し上げます。

最後になりますが、寺尾重藏さんのご冥福とABBFの更なるご発展を祈念申し上げます。簡単ですが偲ぶことばとさせていただきます。

合掌

寺尾重藏前理事長の思い出

ABBF 顧問 上竹 實

去る二月十日、寺尾重藏会長(前理事長、以下寺尾理事長と呼称)のご訃報がとび込み、驚きと無念さが交差した。

そして、十一日、小雪降る新潟市でのお通夜、翌日の告別式に参列。日場協・池田朝彦会長や友好団体のNBF・白石雅俊理事長を初め、場協会関係、業界、ABBF各支部からの沢山の生花に囲まれた温和な遺影に感謝とお別れの手を合

わせた。そして、連盟代表して森島弘仁理事長の弔辞に耳を傾けながら、寺尾理事長と共に歩んだ三十五年にわたる長き実業団の思い出が走馬灯のように頭の中を駆け巡った。

寺尾理事長との出会いが無かったら、その後の人生も変わっていただろうし、これほどボウリングにのめり込む事も無かったかもしれない。

連盟の設立当時の資料は現在殆んど残ってなく、又どうしてABBFが創立した



平成3年11月開催の第25回宮様チャリティーボウリング大会で三笠宮寛仁親王との記念写真

のか知らない役員、会員が多くおられるのではないかと考え、この機会にABBFFが誕生した経緯(いきさつ)を知って戴きたいとの思いから、創立当時の状況と寺尾理事長との思い出を私なりに書き留めておきたい。

私と寺尾理事長の初対面は、三十八年前の昭和四十八年秋だったと記憶している。当時、私は勤務社が名古屋市郊外に建設したボウリング場の支配人で出向していたが、ABBFFの前身、全日本実業団ボウリング連盟(JBBF)東京支部の役員をしていた関係で、JBBFメンバーの中でJBCとの再合併に賛同する仲間が増えているのに心配していた。

※JBBFは、昭和三十七年発足の東京実業団連盟(TBBF)が中心となつて昭和四十年に設立された(理事長は故白井万也氏)。第一回全国大会を東京八塔B/Cで開催。当初はJBCの傘下に入っていたが、昭和四十三年脱退、以後四十八年まで、全日本実業団連盟独自の道を歩んでいた。

そして、四十八年秋に東京晴海B/Cで開いたJBBF全国支部長会議で、体協加盟の名目で再合併が可決され、翌四十九年より発足と決定した。しかし会費問題や、支部の事情等で合併に加わる事が出来ない地方の仲間達の不満が多く、このような合併に反対し脱退した支部や悩んでいる支部から、独自の団体を設立しようという動きが表面化。これが四十九年四月新潟市で開催の東日本実業団大会で新団体設立が具体化したのだ。その中心的存在が寺尾重藏理事長であった。私は、今でも四十八年秋の後楽園B/C会議室での支部代表者会議で、大きな声で「議長、新潟支部の寺尾です」と手

をあげ合併反対論をとうとうと述べていた熱弁姿が頭に焼き付いている。この時、賛同のご挨拶したのが「一期一会」のご縁で、その後の長いお付き合いとなったのだ。

東京支部は両団体に分かれ、所沢支部の林武男支部長、八王子支部の菅原修治支部長は賛同してくれた。ボウリングは、余りお金をかけずに楽しくプレーする継続スポーツである。実業団は実業団なりの運営でささやかでも団体を作り、規約・規定を設定。今迄のように全国の仲間とボウリングを通じ交流して行こうというのが目的であった。私もその趣旨に賛同した一人である。

従つて、設立当初は、東京、八王子、川崎、新潟、会津若松、足利、取手など、東京を中心に二十五支部でスタート。しかし、加盟者数は、四十八年のJBBFの加盟者数(二万数千人)の一割りにも満たない二、三四〇人であった。(JBCにも、そんなに移動していない)

その後、四十九年には名古屋、魚津、金沢、大阪、広島、下松など西日本のメンバーが賛同加盟。新連盟に対する期待の大きさが渦潮となつて現れた。その中に森島弘仁現理事長(広島支部)、榎英雄元副理事長(名古屋支部)、島崎秀松元常任理事(魚津支部)など連盟の要職についた人材が入会された。

そして、四十九年正式に「全国実業団ボウリング連盟」と名称が決定。ABBFFが設立されたのだから、当時事務局があった後楽園側から、JBCからの圧力もあり、ABBFFの事務局として部屋はお貸しできないと言われ、当時JBBFから引き続きABBFFの事務局専従になったY嬢が、当時の東京ボウリング協会の会長で、日本電波塔(株)(東京タワーB/C)の故藤岡龍男監査役にお願ひし、六月に東京タワーB/Cのフロントの横の部屋を無料借用、ABBFFの事務局としてご援助戴いた。

この故藤岡会長のご英断、ご厚意が無ければ、事務所を借りる資金もないABBFFはどうなっていたらと思う。四十九年五月開催の、ABBFF設立総会も無事終了。本部役員には寺尾理事長が満場一致で推薦。事務局長には、松崎陽一氏(八王子支部)が就任。結成記念大会(三人チーム戦)も六月に東京タワーB/Cで開催。男子一八チーム、女子も九チームが集まり盛大に開催された。

その後、十一月に全国選手権大会が大坂で開催されるや、関西や西日本のかつての仲間達から問い合わせが増え、翌年からの期待と希望が大きくなった。翌五十年七月には、寺尾理事長、榎名古屋支部長にお願ひし、我がセンターで第二回全国実業団個人選手権大会を開催して戴き、全国から懐かしい仲間が二〇〇人名古屋に参集。私が支配人歓迎挨拶したのも楽しい思い出である。

ところが、この年の秋、センターが閉鎖に伴い、東京に戻った途端、寺尾理事長から大きな声で電話あり、「松崎事務局長が仕事の都合で事務局長役が出来なくなつたので、来年から君にやつてもらいたい」と要請があり、私も営業の本業に戻り何かと多忙であったが、理事長には大会会場をお願いした借りもあるものでむげにも断れず、誰か適任者が出るまでとお手伝いのつもりで引け受けた。(五十二年三月の全国総会で第二代事務局長就任)

以後、毎日、大手町の会社から芝の東京タワーの事務局へ立ち寄り、Y嬢と二人でかつての支部仲間や地方センターに電話し、支部結成依頼をして帰宅するのが日課となつた。

今も、私の書棚にY嬢が全国の支部仲間へ電話し、その返事が書かれたメモ帳が保存されていて貴重な資料となつている。

あれから三十五年、最後は副理事長を十四年を務めさせて戴いたが、プレーヤーとしては全然ヘボなので、寺尾理事長もそれを見越して、君は選手としての素質は無いから事務局をやってくれと頼まれたのだから。私も裏方業務が好きで、全

国大会に行くと、会員仲間から何故投げないのですかと不思議がられ、投げないで良く二日間おられますねと驚かされていた。プレーヤーとして競技や記録に挑戦していく生き方もあるが、スポーツボウリングを通じた人間関係の付き合いが好きで、長く続いたのかも知れない。実業団仲間同志の絆でもあった。

寺尾理事長も一徹で、理事会で多数決で決まっても、駄目なものは駄目と独断で決断してしまふカリスマ的なところもあり、こわい面もあったが、情もあつた。アルコールは全然駄目なのにカラオケは得意で、それも新曲を見事に歌われていた。東京に来られると何度か六本木のカラオケバーにお誘ひした。

あまり褒められた記憶はないが、新支部の設立に成功し、報告すると「良くやつた」と喜んでおられた笑顔が嬉しかった。諏訪支部や日立支部も大きくなり連盟の中心支部となつている。

連盟も、あと二年で創立四十周年を迎えるが、この間、事務局長は松崎、上竹、飯塚、岡松、小鹿、三枝と六人代わつたが、理事長職は寺尾理事長と森島理事長の二人。在籍三十二年素晴らしいリーダーシップを発揮されたのではないかと痛感する。

残念なのは、寺尾理事長と約束した会員五、〇〇〇名突破の目標が未だクリアされていない事で、先日も遺影に頭を下げ謝つて来た。どうか会員の皆さんも森島理事長と共に一致団結し、ABBFFの輪を全国各県に広げていって戴きたいと念願する。私も後期高齢者になり残り少なく、再会する日も近くなつたが、なんとかこの約束だけは果たさないと、あの世に行っても寺尾理事長に顔向けが出来ない。大好きなABBFF発展の為、老骨に鞭打ち頑張りたい。

寺尾理事長 どうか安らかにお休み下さい。そして天国よりABBFFをお守り下さい。お約束は必ず実現します。

合掌